

リモコン草刈機の活用によって 電気柵下除草の負担軽減に繋がる（南相馬市）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 リモコン草刈機の実証（南相馬市）
担当者 渡辺明

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域においては、水稻の鳥獣害対策として電気柵が普及しているが、柵下の除草作業が負担となっている。そこで、リモコン草刈機（商品名：smamo）を用いた除草作業を実証した結果、柵下の除草に係る作業時間の短縮と負担軽減を図ることができた。

- (1) 地元生産者1名の協力のもと、リモコン草刈機（図1）、エンジン刈払機を用いて、平坦な畦畔での除草作業を実施した。
- (2) 電気柵下の除草作業について、エンジン刈払機と比較し、リモコン草刈機の作業時間は約半分となり、支柱を傷つけることも無かった。また、より少ない負担で作業ができた(表1、図2)。
- (3) 作業者からは、静音で体の負担が少ない点が良い、慣れるまでが大変、刈幅が少ないとの感想が挙がった

2 期待される効果

- (1) 管理作業の労力軽減を図ることができ、担い手の更なる規模拡大にも寄与される。

3 活用上の留意点

- (1) 雑草の発生状況により、除草範囲や各種除草剤の併用も検討する必要がある。
- (2) 複数のアタッチメントを活用することで、電気柵下以外への活用も可能である。
- (3) 活用の際は、株式会社ササキコーポレーションへ問い合わせる。

(HP：<http://www.sasaki-corp.co.jp/corner803375/corner804742/smamo.html>)

II 具体的データ等



図1 株式会社ササキコーポレーション製 smamo(際刈リアタッチメント装着)
(希望小売価格：スマモ際刈りセット B T 2 1,787,500 円)

表1 電気柵下における除草作業の比較

	作業内容	作業時間(分/50m)	心拍数※	草刈高 (実測値)	電気柵(5m間隔)の被害割合 (傷ついた支柱をカウント)
リモコン草刈機	刈払部が電気柵直下を通るよう操作し、直線状に走行(刈幅約34cm)	4分28秒	73 bpm	5cm	0%
エンジン刈払機	電気柵直下を中心に除草(刈幅約150cm)	8分50秒	93 bpm	5cm	30%

※心拍数は作業終了時の平均値から算出。

※作業日：2023年10月31日14:00～15:00、天気：晴れ、気温：15℃



図2 リモコン草刈機の刈跡(左)及び刈払機による除草(右)

III その他

1 執筆者 渡辺明

2 実施期間 令和5年度

3 主な参考文献・資料

(1) 令和3年度参考となる成果「自走リモコン草刈機による獣害対策用電気柵下の草刈り法」